

# 資料

## 1. 各圏域の状況

### (1) 和歌山保健医療圏

#### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		2市1町	9市20町1村
面積（対全県比）		438.25km <sup>2</sup> (9.3%)	4,724.69km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	413,354人 (44.8%)	922,584人
	0～14歳	47,792人	105,360人
	15～64歳	230,754人	503,704人
	65歳～	131,679人	305,500人
	高齢化率	31.9%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	6.2	5.8
	死亡率（人口千対）	15.1	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	3.6	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	0.4	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	374.5	370.0
	心疾患	245.8	252.2
	肺炎	86.9	84.1
	脳血管疾患	81.7	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）

第1章

第2章

第3章

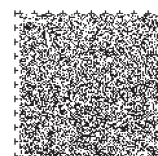
第4章

第5章

第6章

第7章

資料



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	458	14.4
心疾患	257	28.0
脳血管疾患	488	47.1
糖尿病	64	52.8
精神疾患	854	335.8

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

患者住所地		和歌山保健医療圏	
		(%)	(人)
入院先			
和歌山	保健医療圏	85.1	3,942
那賀	保健医療圏	4.2	196
橋本	保健医療圏	0.0	2
有田	保健医療圏	2.0	91
御坊	保健医療圏	0.6	27
田辺	保健医療圏	0.2	10
新宮	保健医療圏	0.1	4
県外		7.8	362
合計		100.0	4,634

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

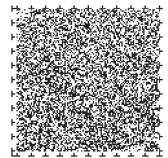
〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)
圏域	43 (10.6)	488 (120.1)	254 (62.5)	228 (56.1)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	4,707 (1,158.3)	1,039 (255.7)	773 (190.2)	0 (0.0)	8 (2.0)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県薬務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出



〔 圏域内の病院の機能（救急告示診療所を含む） 〕

		救命救急センター	救急告示診療所(●)	救急告示病院(○)	災害支援病院(●)	災害拠点病院(○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
和歌山市														
1	和歌山労災病院		○	○	○						○			
2	西和歌山病院													
3	河西田村病院		○											
4	中江病院		○											
5	誠佑記念病院		○											
6	向井病院													
7	和歌山生協病院		○					○						
8	堀口記念病院		○					○						
9	嶋病院		○					○						
10	角谷整形外科病院													
11	角谷リハビリテーション病院													
12	済生会和歌山病院		○	●										
13	伏虎リハビリテーション病院		○					○						
14	児玉病院													
15	須佐病院		○											
16	古梅記念病院		○											
17	瀬藤病院													
18	日本赤十字社和歌山医療センター	○	○	○	○	○				○				○
19	浜病院													
20	今村病院		○											
21	愛徳医療福祉センター													
22	橋本病院		○					○						
23	半羽胃腸病院													
24	高山病院													
25	向陽病院		○											
26	中谷病院		○					○						
27	宇都宮病院		○					○						
28	田村病院													
29	稲田病院							○						
30	宮本病院													
31	藤民病院							○						
32	和歌浦中央病院		○					○						
33	和歌浦病院													
34	福外科病院													
35	県立医科大学附属病院	○	○	○					○				○	
36	上山病院		○					○						

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

資料

		救命救急センター	救急告示診療所(●)	救急告示病院(○)	災害支援病院(●)	災害拠点病院(○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
和歌山市(続き)														
37	琴の浦リハビリテーションセンター附属病院													
38	月山チャイルドケアクリニック		●											
海南市・紀美野町														
1	石本病院			○										
2	海南医療センター			○	●									
3	笠松病院													
4	恵友病院			○				○						
5	辻秀輝整形外科		●											
6	谷口病院													
7	国保野上厚生総合病院			○	●			○				○		

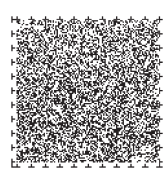
(令和6年1月31日現在)

**人口構造の変化の見通し**

- 2市1町（和歌山市・海南市・紀美野町）により構成される和歌山保健医療圏内の総人口は、県人口の4割超を占めています。圏域の総人口については、令和12年頃に向けて減少の一途を辿ると推計される一方で、75歳以上人口に関しては増加していく見込みです。
- また、海南市・紀美野町の75歳以上人口に着目すれば、令和7年頃をピークとして減少に転じる見込みであり、圏域内においては、高齢化の進行等に差が見られるところです。
- このような高齢化の進行や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となります。

**医療提供体制・患者の受療動向等**

- 全県の約半数の病院が和歌山保健医療圏内、とりわけ和歌山市に37病院が所在するなど、県内における医療資源が集中しています。
- 特定機能病院かつ高度救命救急センターである和歌山県立医科大学附属病院及び、高度救命救急センターである日本赤十字社和歌山医療センターが和歌



山市に所在し、全県的な高度急性期機能を担っています。

- 和歌山保健医療圏内の自己完結率は、主要疾病・事業において総じて高く、また高度な医療を提供する病院が複数所在していることから、県外も含めた周辺圏域からの患者流入の受け皿としての役割を果たしています。
- 和歌山保健医療圏の東部に位置する紀美野町には、国保野上厚生総合病院があり、へき地医療拠点病院として地域医療を担っています。

第1章

第2章

第3章

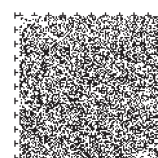
第4章

第5章

第6章

第7章

資料



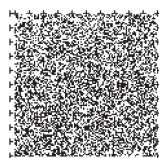
## (2) 那賀保健医療圏

### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		2 市	9 市 20 町 1 村
面積（対全県比）		266.72km <sup>2</sup> (5.6%)	4,724.69km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	112,783人 (12.2%)	922,584人
	0～14歳	13,848人	105,360人
	15～64歳	65,392人	503,704人
	65歳～	32,298人	305,500人
	高齢化率	28.6%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	6.2	5.8
	死亡率（人口千対）	13.0	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	5.7	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	2.9	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	304.5	370.0
	心疾患	204.5	252.2
	肺炎	63.4	84.1
	脳血管疾患	94.6	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	84	17.0
心疾患	53	19.3
脳血管疾患	113	82.0
糖尿病	19	17.3
精神疾患	207	264.1

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

入院先	患者住所地	那賀保健医療圏	
		(%)	(人)
和歌山	保健医療圏	27.0	295
那賀	保健医療圏	60.6	663
橋本	保健医療圏	2.5	27
有田	保健医療圏	1.0	11
御坊	保健医療圏	0.6	6
田辺	保健医療圏	0.4	4
新宮	保健医療圏	0.0	0
	県外	7.9	88
	合計	100.0	1,094

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)
圏域	8 (7.1)	111 (99.1)	48 (42.9)	55 (49.1)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	748 (667.9)	238 (212.5)	218 (194.7)	0 (0.0)	4 (3.6)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県薬務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出

第1章

第2章

第3章

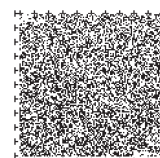
第4章

第5章

第6章

第7章

資料



〔 圏域内の病院の機能 〕

		救命救急センター	救急告示病院	災害支援病院(●)	災害拠点病院(○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	紀の川病院												
2	富田病院		○				○						
3	つくし医療・福祉センター												
4	殿田胃腸肛門病院												
5	貴志川リハビリテーション病院		○	●			○						
6	公立那賀病院		○	○					○		○		
7	稲穂会病院		○										
8	名手病院		○				○						

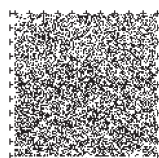
(令和6年1月31日現在)

人口構造の変化の見通し

- 2市（紀の川市・岩出市）により構成される那賀保健医療圏内の総人口は、県全体と同様に減少の一途を辿る見込みです。今後、労働世代人口が減少するとともに、働き方改革・ワークライフバランスが重視され、チーム医療による医療の集約化が予想されます。一方で、令和22年に向けて、75歳以上、特に80歳以上の顕著な増加が見込まれ、更なる介護需要、在宅医療及び看取りの増加が予測されます。
- このような高齢化の進行や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となります。

医療提供体制・患者の受療動向等

- 患者の受療動向に関しては、圏域内での自己完結率は高くなく、県全体の約半数の病院が集中する和歌山保健医療圏に流出しています。
- 高度な医療は和歌山保健医療圏に一部依存しながらも、地域住民が暮らしを営む生活圏において必要な医療ニーズに対応できる医療提供体制を維持することが重要です。





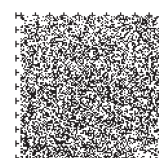
### (3) 橋本保健医療圏

#### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		1市3町	9市20町1村
面積（対全県比）		463.42km <sup>2</sup> (9.8%)	4,724.69km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	83,611人 (9.1%)	922,584人
	0～14歳	9,113人	105,360人
	15～64歳	44,547人	503,704人
	65歳～	29,553人	305,500人
	高齢化率	35.5%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	5.0	5.8
	死亡率（人口千対）	16.6	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	7.4	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	2.5	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	402.3	370.0
	心疾患	236.2	252.2
	肺炎	72.6	84.1
	脳血管疾患	103.3	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	92	16.6
心疾患	45	15.4
脳血管疾患	97	74.2
糖尿病	8	16.8
精神疾患	193	189.5

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

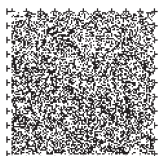
入院先	患者住所地 保健医療圏	橋本 保健医療圏	
		(%)	(人)
和歌山	保健医療圏	7.2	75
那賀	保健医療圏	8.8	92
橋本	保健医療圏	62.1	645
有田	保健医療圏	1.4	14
御坊	保健医療圏	0.0	0
田辺	保健医療圏	0.0	0
新宮	保健医療圏	0.0	0
県外		20.5	213
合計		100.0	1,039

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数				
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)	
圏域	5 (6.2)	90 (110.7)	45 (55.4)	50 (61.5)	
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)	
	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	698 (858.7)	143 (175.9)	120 (147.6)	0 (0.0)	4 (4.9)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県業務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出



## 〔 圏域内の病院の機能(救急告示診療所を含む) 〕

		救命救急センター	救急告示診療所(●)	救急告示病院(○)	災害支援病院(●)	災害拠点病院(○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	橋本市民病院		○	○						○		○		
2	紀和病院		○	●			○							
3	山本病院		○				○							
4	県立医科大学附属病院紀北分院		○	●										
5	紀の郷病院													
6	高野町立高野山総合診療所		●											

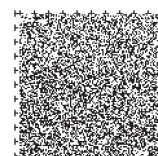
(令和6年1月31日現在)

### 人口構造の変化の見通し

- 1市3町（橋本市・かつらぎ町・九度山町・高野町）により構成される橋本保健医療圏内の総人口は、県人口の1割弱にあたります。圏域の総人口については、令和12年頃に向けて減少の一途を辿ると推計される一方で、75歳以上人口に関しては増加していく見込みです。
- このような高齢化の進展や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となります。

### 医療提供体制・患者の受療動向等

- 圏域内には5病院が所在し、高度急性期・急性期・回復期を中心とした医療が提供されています。慢性期医療については他圏域への依存が大きい現状があることから、高齢化が進む令和12年に向けての体制構築が課題となっています。
- 患者の受療動向に関しては、大阪府、和歌山・那賀保健医療圏への流出が多く、その一方で、那賀保健医療圏、奈良県からの患者が流入しており、圏域を超えた患者流出が多い地域となっています。
- 疾病別では、慢性期患者やがん・糖尿病等の患者流出が多い特徴があります。



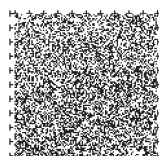
## (4)有田保健医療圏

### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		1市3町	9市20町1村
面積（対全県比）		474.82 km <sup>2</sup> (10.1%)	4,724.69 km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	69,699 人 (7.6%)	922,584 人
	0～14 歳	8,045 人	105,360 人
	15～64 歳	37,197 人	503,704 人
	65 歳～	24,097 人	305,500 人
	高齢化率	34.6%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	5.5	5.8
	死亡率（人口千対）	16.7	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	8.1	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	2.7	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	349.4	370.0
	心疾患	392.3	252.2
	肺炎	85.9	84.1
	脳血管疾患	93.3	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	70	15.9
心疾患	43	16.5
脳血管疾患	66	30.9
糖尿病	11	15.4
精神疾患	138	81.9

厚生労働省「平成 29 年患者調査」(平均在院日数は、9 月 1 日～9 月 30 日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

患者住所地 入院先	有田保健医療圏	
	(%)	(人)
和歌山保健医療圏	29.6	248
那賀保健医療圏	1.8	15
橋本保健医療圏	0.2	2
<b>有田保健医療圏</b>	<b>60.3</b>	<b>505</b>
御坊保健医療圏	3.3	28
田辺保健医療圏	0.0	0
新宮保健医療圏	0.0	0
県外	4.8	40
合計	100.0	838

厚生労働省「平成 29 年患者調査」(人数は推計)

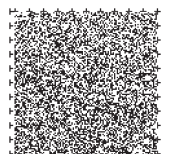
〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口 10 万対)	一般診療所 (人口 10 万対)	歯科診療所 (人口 10 万対)	薬局 (人口 10 万対)
圏域	6 (8.9)	75 (111.0)	38 (56.3)	31 (45.9)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口 10 万対)	療養病床 (人口 10 万対)	精神病床 (人口 10 万対)	結核病床 (人口 10 万対)	感染症病床 (人口 10 万対)
圏域	494 (731.4)	171 (253.2)	300 (444.2)	0 (0.0)	4 (5.9)
全県	9,254 (1024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和 4 年医療施設調査」(ただし、薬局については県薬務課調べ(令和 5 年 3 月 31 日現在))

人口 10 万対の数値は、令和 4 年 10 月 1 日現在の推計人口により算出



〔 圏域内の病院の機能 〕

		救命救急センター	救急告示病院(○)	災害支援病院(●)	災害拠点病院(○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	有田市立病院		○	○			○						
2	済生会有田病院		○	●			○						
3	西岡病院		○				○						
4	桜ヶ丘病院		○										
5	有田南病院		○										
6	県立こころの医療センター				○ 精神科								

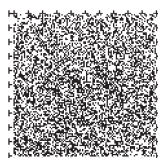
(令和6年1月31日現在)

人口構造の変化の見通し

- 1市3町（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）により構成される有田保健医療圏内の総人口は、県人口の7.6%です。圏域の人口についてはいずれの年齢区分も減少すると推計されますが、65歳未満の減少が著しいため高齢化率は高くなる見込みです。
- このような高齢化の進行や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となります。

医療提供体制・患者の受療動向等

- 有田保健医療圏内には6病院が所在し、急性期・回復期・慢性期機能を中心とした医療及び精神科医療を担っています。
- 隣接する和歌山保健医療圏等へのアクセスも比較的容易であることから、圏域内の自己完結率は総じて低く、患者流出が多く見られます。
- 高度急性期医療に関しては、隣接する和歌山保健医療圏（県立医科大学附属病院・日本赤十字社和歌山医療センター等高度急性期機能を担う医療機関が所在）に大勢を委ねている現状です。
- 入院・外来患者数とも、令和7年をピークに減少すると推計されますが、在宅患者は増加する見込みです。



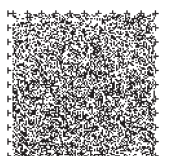
## (5) 御坊保健医療圏

### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		1市5町	9市20町1村
面積（対全県比）		579.03 km <sup>2</sup> (12.3%)	4,724.69 km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	60,324人 (6.5%)	922,584人
	0～14歳	6,918人	105,360人
	15～64歳	32,251人	503,704人
	65歳～	20,547人	305,500人
	高齢化率	34.4%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	5.6	5.8
	死亡率（人口千対）	17.3	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	3.1	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	3.1	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	370.0	370.0
	心疾患	252.3	252.2
	肺炎	109.1	84.1
	脳血管疾患	104.0	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	50	18.2
心疾患	36	16.5
脳血管疾患	58	60.8
糖尿病	6	13.0
精神疾患	113	223.2

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

入院先	患者住所地	御坊保健医療圏	
		(%)	(人)
和歌山	保健医療圏	11.9	94
那賀	保健医療圏	0.7	6
橋本	保健医療圏	0.0	0
有田	保健医療圏	5.8	46
御坊	保健医療圏	71.0	562
田辺	保健医療圏	3.7	29
新宮	保健医療圏	0.0	0
	県外	6.9	54
	合計	100.0	791

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

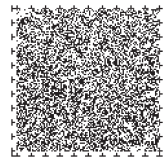
〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)
圏域	4 (6.8)	66 (112.5)	29 (49.4)	30 (51.1)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	807 (1,375.9)	51 (87.0)	100 (170.5)	15 (25.6)	4 (6.8)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県業務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出





## 〔 圏域内の病院の機能 〕

		救命救急センター	救急告示病院(○)	災害拠点病院(○) 災害支援病院(●)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	北出病院		○	●		○						
2	整形外科北裏病院		○									
3	ひだか病院		○	○		○			○	○		
4	和歌山病院		○	●	○							

(令和6年1月31日現在)

### 人口構造の変化の見通し

- 1市5町（御坊市・美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町）により構成される御坊保健医療圏内の総人口は減少の一途をたどると推計され、75歳以上人口は令和12年頃をピークに減少に転ずる見込みです。
- 人口減少、高齢化の進展による疾病構造の変化や支える世代の減少等に対応するための医療提供体制の構築が必要です。

### 医療提供体制・患者の受療動向等

- 圏域内には4病院が所在し、うち3病院が津波被害想定区域に位置しています。
- 主要疾病・事業に係る各種指標の受療行動をみても圏域内での受療割合は概ね高くなっており、圏域内において必要な医療が概ね充足されています。
- 療養病床入院患者や精神疾患救急入院に関しては、有田保健医療圏への流出が見られます。

第1章

第2章

第3章

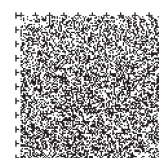
第4章

第5章

第6章

第7章

資料



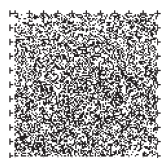
## (6) 田辺保健医療圏

### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		1市4町	9市20町1村
面積（対全県比）		1580.00 km <sup>2</sup> (33.4%)	4,724.69 km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	120,871 人 (13.1%)	922,584 人
	0～14 歳	13,760 人	105,360 人
	15～64 歳	64,548 人	503,704 人
	65 歳～	41,282 人	305,500 人
	高齢化率	34.2%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	5.8	5.8
	死亡率（人口千対）	16.7	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	4.4	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	4.4	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	363.1	370.0
	心疾患	213.0	252.2
	肺炎	73.8	84.1
	脳血管疾患	117.9	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	170	18.9
心疾患	74	13.2
脳血管疾患	159	44.7
糖尿病	26	145.8
精神疾患	198	58.6

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

入院先	患者住所地	田辺保健医療圏	
		(%)	(人)
和歌山	保健医療圏	3.9	63
那賀	保健医療圏	0.5	8
橋本	保健医療圏	0.0	0
有田	保健医療圏	2.1	34
御坊	保健医療圏	2.6	42
田辺	保健医療圏	82.5	1,327
新宮	保健医療圏	2.6	41
	県外	5.8	95
	合計	100.0	1,610

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)
圏域	9 (7.6)	130 (110.3)	58 (49.2)	71 (60.2)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	1,098 (931.6)	397 (336.8)	198 (168.0)	0 (0.0)	4 (3.4)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県薬務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出

第1章

第2章

第3章

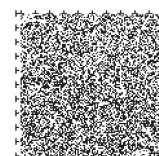
第4章

第5章

第6章

第7章

資料



〔 圏域内の病院の機能 〕

		救命救急センター	救急告示診療所 (●)	救急告示病院 (○)	災害支援病院 (●)	災害拠点病院 (○)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	南和歌山医療センター	○		○	○	○				○		○		
2	紀南病院			○	○					○		○		○
3	田辺中央病院			○				○						
4	玉置病院													
5	紀南こころの医療センター													
6	白浜はまゆう病院			○	●			○						
7	白浜小南病院													
8	南紀医療福祉センター													
9	国保すさみ病院			○	●									

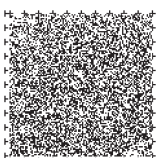
(令和6年1月31日現在)

人口構造の変化の見通し

- 1市4町（田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町）により構成される田辺保健医療圏は、県面積の約30%を占める広大な圏域であり、圏域内でも人口構成や医療資源に地域差がみられます。
- 人口減少・高齢化の進展に伴う医療需要・疾病構造の変化に対応していく必要があります。

医療提供体制・患者の受療動向等

- 主要疾病・事業の自己完結率が高く、必要な医療は概ね圏域内で完結されています。
- 医療提供体制の確保・維持するため、医療従事者の確保・育成を図る必要があります。



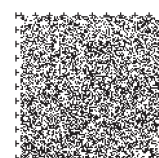
## (7)新宮保健医療圏

### 圏域の現状

#### 〔 基本的事項 〕

		圏 域	全 県
構成市町村数		1市4町1村	9市20町1村
面積（対全県比）		922.45 km <sup>2</sup> (19.5%)	4,724.69 km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全県比)	61,942 人 (6.7%)	922,584 人
	0～14 歳	5,884 人	105,360 人
	15～64 歳	29,015 人	503,704 人
	65 歳～	26,044 人	305,500 人
	高齢化率	42.7%	33.4%
人 口 動 態	出生率（人口千対）	4.0	5.8
	死亡率（人口千対）	20.8	15.8
	周産期死亡率（出産千対）	0.0	4.4
	乳児死亡率（出産千対）	0.0	1.7
主要疾患 死亡率 (人口10万 対)	悪性新生物	454.1	370.0
	心疾患	324.6	252.2
	肺炎	112.7	84.1
	脳血管疾患	124.5	95.1

面積は国土交通省国土地理院「令和5年10月全国都道府県市区町村別面積調」、人口は総務省「令和2年国勢調査」、人口動態は県医務課「令和4年和歌山県の人口動態統計」による（総人口には、年齢不詳を含む）



〔 圏域内住民の5疾病別推計入院患者数及び退院患者平均在院日数 〕

	入院患者数 (人)	平均在院日数 (日)
悪性新生物	100	24.5
心疾患	64	13.4
脳血管疾患	100	36.6
糖尿病	29	16.1
精神疾患	292	41.0

厚生労働省「平成29年患者調査」(平均在院日数は、9月1日～9月30日に退院したものが対象)

〔 二次保健医療圏入院患者の動向 〕

入院先	患者住所地	新宮保健医療圏	
		(%)	(人)
和歌山	保健医療圏	4.3	49
那賀	保健医療圏	0.2	2
橋本	保健医療圏	0.2	2
有田	保健医療圏	0.4	5
御坊	保健医療圏	1.3	15
田辺	保健医療圏	9.2	103
新宮	保健医療圏	72.8	820
県外		11.6	130
合計		100.0	1,126

厚生労働省「平成29年患者調査」(人数は推計)

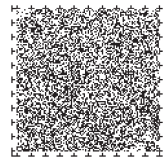
〔 医療施設の状況 〕

	医療機関等数			
	病院 (人口10万対)	一般診療所 (人口10万対)	歯科診療所 (人口10万対)	薬局 (人口10万対)
圏域	8 (13.5)	70 (117.7)	48 (80.7)	33 (55.5)
全県	83 (9.2)	1,030 (114.1)	520 (57.6)	498 (55.1)

	病床数				
	一般病床 (人口10万対)	療養病床 (人口10万対)	精神病床 (人口10万対)	結核病床 (人口10万対)	感染症病床 (人口10万対)
圏域	702 (1180.7)	188 (316.2)	335 (563.4)	0 (0.0)	4 (6.0)
全県	9,254 (1,024.8)	2,227 (246.6)	2,044 (226.4)	15 (1.7)	32 (3.5)

厚生労働省「令和4年医療施設調査」(ただし、薬局については県業務課調べ(令和5年3月31日現在))  
人口10万対の数値は、令和4年10月1日現在の推計人口により算出



〔 圏域内の病院の機能 〕

		救命救急センター	救急告示病院(○) 救急告示診療所(●)	災害拠点病院(○) 災害支援病院(●)	地域医療支援病院	地域密着型協力病院	県がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県がん診療連携推進病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
1	岩崎病院											
2	串本有田病院											
3	くしもと町立病院		○	●								
4	潮岬病院											
5	新宮市立医療センター		○	○	○				○			
6	新宮病院											
7	那智勝浦町立温泉病院		○	●								
8	日進会病院											

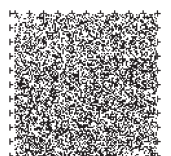
(令和6年1月31日現在)

人口構造の変化の見通し

- 1市4町1村（新宮市、那智勝浦町、太地町、古座川町、串本町、北山村）により構成される新宮保健医療圏では、令和2年時点で新宮圏域の人口の約2.5人に1人が65歳以上となっており、県全体の約3人に1人より早く高齢化が進んでいます。令和12年に向けて75歳以上の人口は緩やかに増加し、65歳以上は緩やかに減少傾向です。また、令和27年に向けては65歳以上及び75歳以上とも減少傾向です。
- このような高齢化の進行や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となります。

医療提供体制・患者の受療動向等

- 新宮保健医療圏内には8病院が所在し、急性期・回復期・慢性期機能を担っており、主要疾病・事業の自己完結率は高くなっています。高度急性期も令和4年4月に新宮市立医療センターに5床整備され、圏域の拠点として機能しています。



## 2. 「和歌山県医療機能調査」の概要

調査目的	県内における医療機能等の現状を把握し、第八次保健医療計画及び第八次(前期)外来医療計画の策定にあたっての基礎資料や、今後の保健医療行政推進の参考とするため、調査を実施			
調査実施期間	令和5年7月10日～令和5年7月31日			
基準日	令和5年7月1日			
調査方法	郵送による調査票の配付・回収			
調査対象		配付数	回収数	回収率
	病院	83	79	95.2%
	一般診療所(※)	892	783	87.8%
調査事項	病院	基本情報、がん治療、脳卒中治療、心血管疾患治療、糖尿病治療、精神医療、災害医療、周産期医療、小児医療、新興感染症医療、在宅医療、透析治療、アレルギー疾患治療		
	一般診療所	基本情報、在宅医療、透析治療、アレルギー疾患治療、学校医、産業医、初期救急（夜間・休日）		

(※) 企業内診療所やワクチン接種のための診療所等は除く

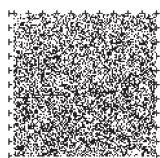
- 調査結果については、本計画策定にあたっての現況把握のための基礎資料とするともに、集計結果の一部は第5章のそれぞれのページに掲載しています。

なお、がんや脳卒中等の各医療機関の受入れ・対応等については、疾病の状態によって異なる場合もありますので、かかりつけ医や当該医療機関にご相談ください。

- 病院及び一般診療所の医療機能については、「医療情報ネット」や「わかやま医療情報ネット」でも明示しています。

医療情報ネット <https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp>

わかやま医療情報ネット <https://www.wakayama.qq-net.jp>





### 3. 和歌山県医療審議会・和歌山県地域保健医療協議会等委員名簿

(令和6年3月25日現在)

#### ①和歌山県医療審議会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 平 石 英 三	一般社団法人和歌山県医師会会長
○ 中 井 國 雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
○ 中 西 孝 紀	一般社団法人和歌山県歯科医師会会長
安 藤 恵 理	一般
稲 葉 眞 也	一般社団法人和歌山県薬剤師会会長
岩 崎 伊 佐 子	一般
上 野 隆 生	健康保険組合連合会和歌山連合会常務理事
上 林 雄 史 郎	一般社団法人和歌山県医師会副会長
尾 崎 文 教	公益社団法人和歌山県病院協会理事
川 並 久 美 子	一般
木 下 智 弘	一般社団法人和歌山県医師会副会長
日 裏 勝 己	和歌山県町村会副会長
東 直 子	公益社団法人和歌山県看護協会会長
藤 井 友 彦	和歌山弁護士会会長
松 田 美 代 子	一般
三 浦 源 吾	和歌山県市長会副会長
宮 下 和 久	和歌山県立医科大学理事長
山 田 茂 弘	全国健康保険協会和歌山支部支部長
山 田 陽 一	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
横 山 達 伸	和歌山県国民健康保険団体連合会常務理事

◎会長 ○副会長

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

資料

## ②和歌山県地域保健医療協議会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 平石英三	一般社団法人和歌山県医師会会長
○ 中井國雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
上林雄史郎	一般社団法人和歌山県医師会副会長
木下智弘	一般社団法人和歌山県医師会副会長
中谷剛	一般社団法人和歌山県医師会理事
山田陽一	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
川上守	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
中西孝紀	一般社団法人和歌山県歯科医師会会長
鋤柄宣子	一般社団法人和歌山県薬剤師会副会長
東直子	公益社団法人和歌山県看護協会会長
宮下和久	和歌山県立医科大学理事長
笠松美恵	和歌山市保健所長
池田和功	和歌山県保健所長会会長
柳岡公彦	国保野上厚生総合病院院長

◎会長 ○副会長

## ③和歌山県がん対策推進委員会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 山本信之	和歌山県立医科大学内科学第3講座教授
○ 北野雅之	和歌山県立医科大学内科学第2講座教授
○ 山下幸孝	日本赤十字社和歌山医療センター院長
井篁一彦	和歌山県立医科大学産科・婦人科学講座教授
櫻山美佳	公益社団法人和歌山県看護協会
川井学	和歌山県立医科大学外科学第2講座教授
楠本昌彦	国立がん研究センター中央病院副院長
桑美津子	一般
駿田直俊	橋本市民病院病院長
園村哲郎	和歌山県立医科大学放射線医学講座教授
田中祥博	弁護士
玉井圭	一般
西岡正好	一般社団法人和歌山県医師会理事
堀田司	公立那賀病院がんセンター長
牟礼佳苗	和歌山県立医科大学公衆衛生学講座准教授
山田陽一	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
山邊和生	紀南病院副院長、外科主任部長兼がん診療連携センター長
横山省三	国立病院機構南和歌山医療センター統括診療部長

◎委員長 ○副委員長

## ④和歌山県循環器病対策推進協議会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 平石英三	一般社団法人和歌山県医師会会長
○ 上野雄二	公益社団法人和歌山県病院協会顧問
東直子	公益社団法人和歌山県看護協会会長
稲葉眞也	一般社団法人和歌山県薬剤師会会長
中尾直之	和歌山県立医科大学附属病院病院長
田中篤	和歌山県立医科大学内科学第4講座教授
藤吉朗	和歌山県立医科大学衛生学講座教授
豊福守	日本赤十字社和歌山医療センター循環器内科部長
新谷浩子	和歌山県保健所長会
中畔幹夫	和歌山県消防長会救急部会長
高塚美都里	一般社団法人和歌山県訪問看護ステーション連絡協議会会長
河合千世	和歌山県市町村保健師協議会会長

◎会長 ○副会長

## ⑤和歌山県糖尿病対策会議

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 平石英三	一般社団法人和歌山県医師会会長
○ 山田陽一	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
西岡正好	一般社団法人和歌山県医師会理事
青島潔	一般社団法人和歌山県歯科医師会常務理事
高水佳代	公益社団法人和歌山県看護協会
岡井明美	公益社団法人和歌山県栄養士会副会長
近藤溪	公益社団法人日本糖尿病協会和歌山県支部支部長
北村清	公益社団法人日本糖尿病協会和歌山県支部副支部長
古田浩人	和歌山県立医科大学内科学第一講座准教授
金子至寿佳	日本赤十字社和歌山医療センター糖尿病・内分泌内科部長
形部裕昭	和歌山県保健所長会

◎会長 ○副会長

## ⑥和歌山県精神保健福祉審議会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 中 川 利 彦	パークアベニュー法律事務所弁護士
上 林 雄史郎	一般社団法人和歌山県医師会副会長
塚 田 奈 保	和歌山家庭裁判所判事
南 木 芳 亮	和歌山県社会福祉協議会常務理事
磯 崎 朱 里	和歌山県精神保健福祉士協会第一副会長
小 野 善 郎	和歌山県精神保健福祉協会会長
紀 本 創 兵	和歌山県立医科大学神経精神医学講座教授
森 田 佳 寛	和歌山県精神科病院協会会長、県立こころの医療センター院長
大 家 尚 文	和歌山精神神経科診療所協会会長
亀 井 宏 明	日本精神科看護協会和歌山県支部長
窪 原 麻 希	和歌山県共同作業所連絡会
上 田 路 子	特定非営利活動法人わかやま相談支援専門員協会
大 畠 信 雄	和歌山県精神保健福祉家族会連合会副会長
山 崎 文 三	和歌山県精神障害者団体連合会副会長

◎会長

## ⑦和歌山県地域保健医療協議会 小児救急医療専門委員会議

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 木 下 智 弘	一般社団法人和歌山県医師会副会長
森 壽 美	一般社団法人和歌山県医師会理事
小 林 昌 和	和歌山小児科医会副会長
山 田 陽 一	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
宮 脇 正 和	公益社団法人和歌山県病院協会
井 上 茂 亮	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授
島 友 子	和歌山県立医科大学小児科学講座講准教授
儘 田 光 和	日本赤十字社和歌山医療センター小児科部長
中 大 輔	日本赤十字社和歌山医療センター院長補佐兼救急科・集中治療部長

◎議長

## ⑧和歌山県地域保健医療協議会 周産期医療専門委員会議

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 西 森 敬 司	公益社団法人和歌山県病院協会
奥 村 嘉 英	一般社団法人和歌山県医師会理事
上 中 保 博	和歌山小児科医会会長
矢 本 希 夫	和歌山県産婦人科医会会長
南 佐和子	和歌山県立医科大学総合周産期母子医療センター副センター長
熊 谷 健	和歌山県立医科大学総合周産期母子医療センター副センター長
儘 田 光 和	日本赤十字社和歌山医療センター小児科部長
吉 田 隆 昭	日本赤十字社和歌山医療センター副院長兼産婦人科部長
神 谷 和 世	一般社団法人和歌山県助産師会会長
中 畔 幹 夫	和歌山県消防長会参与
和 田 安 彦	和歌山県保健所長会

◎議長

## ⑨和歌山県地域保健医療協議会 救急医療専門委員会議

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 中 井 國 雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
木 下 智 弘	一般社団法人和歌山県医師会副会長
中 谷 剛	一般社団法人和歌山県医師会理事
森 壽 美	一般社団法人和歌山県医師会理事
奥 村 嘉 英	一般社団法人和歌山県医師会理事
中 江 聡	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
川 上 守	公益社団法人和歌山県病院協会副会長
尾 崎 文 教	公益社団法人和歌山県病院協会理事
井 上 茂 亮	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授
楠 石 由 則	和歌山県立医科大学事務局次長
山 下 幸 孝	日本赤十字社和歌山医療センター院長
内 田 一 彦	日本赤十字社和歌山医療センター管理局長
吉 野 楠 哉	和歌山県消防長会会長
山 本 剛 士	和歌山県危機管理・消防課長
藤 原 大 悟	和歌山市総務企画課長

◎議長

## ⑩和歌山県災害医療検討会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 中井國雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
木下智弘	一般社団法人和歌山県医師会副会長
藤田知則	一般社団法人和歌山県歯科医師会理事
大桑邦稔	一般社団法人和歌山県薬剤師会常務理事
岡室優	公益社団法人和歌山県看護協会専務理事
荒木信一	和歌山県立医科大学腎臓内科学講座教授
田村志宣	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座准教授
中大輔	日本赤十字社和歌山医療センター院長補佐兼医療社会事業部長
小森健志	日本赤十字社和歌山県支部事業推進課長
加藤正哉	有田市立病院管理者
池田和功	和歌山県保健所長会会長
柏木忠寛	和歌山県防災企画課企画班長

◎議長

## ⑪和歌山県地域保健医療協議会 へき地医療専門委員会議

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 柳岡公彦	国保野上厚生総合病院院長
阪越信雄	紀南病院病院長
駿田直俊	橋本市民病院院長
尾崎文教	ひだか病院病院長
中村善也	国立病院機構南和歌山医療センター院長
中尾大成	公立那賀病院院長
南出仁司	一般社団法人和歌山県歯科医師会専務理事
東浦功三	紀美野町住民課課長
田原由季夫	紀の川市国保年金課課長
谷本あけみ	田辺市健康増進課課長
岡本哲明	高野町富貴支所支所長
藏道悦男	日高川町保健福祉課課長

◎議長

## ⑫和歌山県感染症予防対策連携協議会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 平石英三	一般社団法人和歌山県医師会会長
○ 中井國雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
垣本和宏	大阪検疫所和歌山下津出張所所長
村上毅	和歌山県環境衛生研究センター所長
笠松美恵	和歌山市保健所所長
小泉祐介	和歌山県立医科大学臨床感染制御学講座教授
古宮伸洋	日本赤十字社和歌山医療センター感染症内科部長
南方良章	国立病院機構和歌山病院 院長
中西孝紀	一般社団法人和歌山県歯科医師会会長
東直子	公益社団法人和歌山県看護協会会長
稲葉眞也	一般社団法人和歌山県薬剤師会会長
竹中昭美	一般社団法人和歌山県老人福祉施設協議会会長
上田耕臣	一般社団法人和歌山県老人保健施設協会会長
高塚美都里	一般社団法人和歌山県訪問看護ステーション連絡協議会会長
土井邦夫	和歌山県知的障害者福祉協会会長
中畔幹夫	和歌山県消防長会救急部会長
池田和功	和歌山県保健所長会会長

◎会長 ○副会長

## ⑬和歌山県在宅医療体制検討委員会

委員氏名	所属団体・役職名等
◎ 上林雄史郎	一般社団法人和歌山県医師会副会長
○ 中井國雄	公益社団法人和歌山県病院協会会長
田中淳司	一般社団法人和歌山県歯科医師会常務理事
金子雅好	一般社団法人和歌山県薬剤師会常務理事
東直子	公益社団法人和歌山県看護協会会長
初山昌平	一般社団法人和歌山県介護支援専門員協会会長
高塚美都里	一般社団法人和歌山県訪問看護ステーション連絡協議会会長
岩崎正和	公益財団法人和歌山県理学療法士協会会長
前田貴子	和歌山県市町村保健師協議会理事
笠松美恵	和歌山市保健所所長
松本政信	和歌山県保健所長会
雑賀博子	和歌山県福祉保健部技監健康局長事務取扱

◎委員長 ○副委員長